



SAIJO CLINIC

西條朋行責任編集 with m9design.inc

## 西條クリニック通信

号外

内井八郎  
追悼特集

## 門井八郎追悼特集号に寄せて。

西條クリニックでいちばん声の大きい人は誰か。そう聞かれたら、多くの人が同じ名前を挙げると思います。

カウンセラーの門井八郎さんです。

半防音のドアを二枚通しても聞こえてくるような大きな声で、クライアントさんと賑やかに話している。ときには笑い声も混じって、廊下までその空気が伝わってくる。そんな光景は、このクリニックの日常の一部でした。

そしてその声の主は、仙人のように長く伸ばした髪とヒゲという、なかなか印象的な風貌の持ち主でもありました。

一見すると豪放磊落。

しかし実際には、とても繊細で、人の心の小さな揺れにも静かに気づく人でした。

その豪快さと繊細さの、少し不思議なアンバランスこそが、門井さんの大きな魅力だったのだと思います。

その門井さんが、2026年1月12日に逝去されました。

突然の出来事で、私たちスタッフもまだどこか現実味を持ってないまま日々を過ごしています。廊下を歩いていると、またあのカウンセリングの声が聞こえてくるのではないかと、そんな気さえしてしまいます。

本号は門井さんを偲ぶ追悼特集号(号外)として、西條責任編集のもと、特別に「m9デザイン」さんのお力をお借りして制作しました。

門井さんならきつと、

「先生、そんなに大きさにしなくてもいいですよ」と、少し照れながら笑ったのではないかと思います。

それでも、このクリニックに確かに存在していた門井さんの姿を、そして多くの人の記憶の中に残っている門井さんとの時間を、一度きちんと形にしておきたいと思いました。

この号外が、門井さんを知る方それぞれの記憶の中にいる門井さんと、もう一度静かに出会うきっかけになれば幸いです。

西條クリニック院長 西條朋行

# 目に見えないもの、言葉にならないもの

西條クリニックラジオ第4回『水曜日の心理カウンセラー 門井八郎さんを迎えて』より(2024年6月配信)

西條クリニックがお送りするポッドキャスト、「西條クリニックラジオ」では、「西條クリニックラジオ」では、精神医療にまつわるあれこれを、ざつとぼらんに発信しています。

本紙、「門井さん追悼特集」では、「昨年、その第4回を5回に分けて配信した、「門井さんのお話聞き手・西條」から、抜粋、編集版としてお届けします。

幼少期から学童期の体験を経て、大学で人類学を学び、祭や神話の世界を辿りながら、カウンセラーとなった門井さんの思いを深くうかがっています。

割愛した部分もたくさんあります。ぜひ、ポッドキャストで門井さんの生の声でもお聴きください。



## 不思議大好き。

西條 門井さんは、地方のさまざまなお祭りに行かれますよね、まずは、その興味を中心というか、そのことを伺ってみたいですね。

門井 例えば、愛知県の北設楽郡に伝わる「花祭」という祭があります。そこに初めて行ったのは、人類学、民俗学を学んでいた大学生の頃ですが、「花祭は、鎌倉室町時代から約700年以上続く祭で、冬至前後の冷え込みの厳しい時期に、その地域のいくつかの町村で行われます。夜通し、それこそ明け方まで、舞や鬼の神楽が奉納されるのですが、祭りの間では、眠い、寒い、煙い」と言われる祭、儀的には、加えて「遠い」んですけど(笑)。そこには、とても印象的な鬼の神楽があるんです。「反問を踏む」と言いますが、舞庭と言われる、モウモウとした湯立ち(湯を沸かした大きな鍋)が置かれた土間空間で、相撲の四股のように、鬼がドスンとドスンとその地面を踏むんです。それによって土の中のなにかを刺激して、弱っている里の力をまた新しく目覚めさせると言われています。

大地を踏んでなにかを目覚めさせるといふような、祭に宿る、そんな目に見えない力にとても惹かれますし、その感覚は、こうした祭や神楽として形になるより遙か前、それこそ古代にまで遡れる、人間が本来持っているものではないかなと思ったりもしています。

西條 なるほど、不思議と言って良いのかわかりませんが、門井さんの興味は、そうした目に見えない力、そして、それを感受する人の力に興味の中心があると聞いていいんじゃないかなと思ったりもしています。

門井 そうですね。不思議と言えば、もうひとつ、岡山県三崎町で毎年夏に行われる「二上山護法祭(ふたかみごほうさい)」という、こちらも700年の歴史ですが、まさに奇祭と言われています。山伏とか山岳密教、法力、鳴り響くホラ貝、トランス状態で神が乗り移るなど、非常に興味深い世界です。

西條 こちら、興味のある方はぜひネットで調べてみてほしいですが、そもそも、そうした不思議な領域へ接近していった理由みたいなものが門井さんの中にあっただけでしょうか？

門井 これ、ますますオカルティックな話になってしまふのですが、僕の父親は、いわゆる、霊感がつよい人でした。虫の知覚的な事や、家の中で起こる不思議な現象など、僕自身、子どもの頃から偶然では片付けられない多くの体験がありまして、それは、大きいかもしれません。

※この門井さんの学童期のエピソードは、聞くほどあるいは精神分析的であったりと、いろいろなタイプのカウンセラーの方がいますが、私が門井さんに繋げるクライアントさんは、ちょっとそうした方法論には、おさまらない方だったりします。

そして、私が門井さんのカウンセリングに感じるの、やさしさなんです。門井さんがカウンセリングで大事にしていることがあれば教えてください。

門井 繰り返になりますが、言葉にならないもの、目に見えない何か、どこなんだろう、なんなんだろう、とそこに耳を澄ませたい。そういうものに向かって僕自身を開いていく、そのへんを自分のカウンセリングの真ん中にしているのだと思います。そして、まだまだ、経験が足りないと感じますし、その感覚は、もっともって上げていきたいと思っています。

西條 今日、門井さんの本当に大切なことをいっぱい伺った気がしますが、リスナーの方に何かメッセージを願えますか？

門井 僕、毎日のようにクライアントさんのお話を伺わせてもらうようになって20年以上経つんですけど、確実に言えるようになって、まあ、1個あって。

西條 おおー、なんでしょう。

門井 それは、「魅力のない人って、いないんだな」ということなんです。

西條 ほんー。

## 誰にでもある「辿れる道」

門井 僕、毎日のようにクライアントさんのお話を伺わせてもらうようになって20年以上経つんですけど、確実に言えるようになって、まあ、1個あって。

西條 おおー、なんでしょう。

門井 これは、かつての自分がいかに軽薄に人を見ていたか、ということの気づきでもあるんですけど、「魅力がない人は、いない」。本当にその通りだと感じています。この仕事における最もよかった気づきと言っているいかもありません。ですから、例えば、「自分には魅力なんてない」



に不思議ですから、興味のある方は、ぜひ、ポッドキャストで門井さんの生の声でお聴きください。

西條 では、あらためて、門井さんがなぜカウンセラーになられたのかなど、すでに答えをいただいた気もしますが、どうでしょうか。

## レヴィーストローヌと妙好人

門井 そうですね、ひとつ思いつくのは、大学時代に読んだ、フランスの社会人類学者、民族学者である、クロード・レヴィーストローヌの『神話理論』でしょうか。

※『神話理論』(原題: Mythologie, es, 全4巻/邦訳では5巻)フランスで1964年から1971年にかけて刊行。第一巻「生のものと火を通したもの」/第二巻「蜜から灰へ」/第三巻「食卓作法の起源」/第四巻「裸の人」

その本で彼が対象にしたのは主に南北アメリカ、その先住民の神話を精緻に研究しました。そして、一見ばらばらな神話から、人間には普遍的な心の仕組み(構造)があることを証明しようとした本です。

そして、レヴィーストローヌが、そんな神話の構造を徹底的に分析した果てに語ったのが、「唯一、語られていない神話がある」と。その神話は、言語構造の外にあり、象徴としても存在していないのだと。だからそれは、か

と知っている人には、それはちがうよと。自分が気づいていなかったり、周りが感じていなかったりということであって、今は、たまたまそういう状況にあるだけだよと。西條 はい、感動してしまいました。

門井 今日の話に引きつけられ、「魅力」って、言葉の外側というか、目に見えない何かと関係しているし繋がっているという確信があります。カウンセリングで言えば、そこへ辿っていく、一緒に探していくみたいなことを、クライアントさんとの共同作業としてやっている感じが僕にはあるんです。もっと言えば、その作業は、大地に語りかける「反問を踏む」鬼のように、弱った本来の力を取り戻すような、なにかを呼び覚まして「元気になること」、かもしれないですね。

そして、カウンセリング云々じゃなくても、誰にでもそういう辿れる道があるんだって、そこを信じて、歩いて行ってもらえたいいなあと、まあ、僕自身がそうありたいと思っていることなんですけど。

西條 本当に心強いメッセージをいただきました。その作業は、クライアントさんにとっても、ワクワクすることですし、同時に怖かったりもするでしょう。

門井 そうですね、もう一回話したいですね。

西條 ぜひやりましょう。

たちとしては何も無いんです。

西條 「語りえぬものについては、沈黙しなければならぬ」と言ったワイトゲンシュタインや、言葉以前の身体性に注目したメルロ＝ポンティを想起させますね。

門井 ええ、祭りで感じる力。言葉に回収されないもの、こと。言語構造の外側、奥。僕は、そこに触れたいんですよ。ただ、そうしたわかり得ないものに近づいていくのは、魅力と同時に、むしろ怖さがあります。ですから、わかっている自分にしがみついていた部分もあるんです。それでも以前よりも少し、こう、ずるっと手放せる感触もあります。そして、結果、ラクになっている自分も実感しているんですね。

言葉が抱えないものや、構造からこぼれていく何かに、以前よりは率直に向き合っている気がしますし、むしろ、はつきりそっちに行こうとしていますね。

西條 門井さんから聞いたことのある「妙好人」についても紹介してもらえますか？

門井 「妙好人」は、浄土真宗の言葉なんです。それは、「自分は生かされている」ことをわかっている人と言いますか、例えば、学問的な知識があるわけではないけれど、阿弥陀仏の救いを純粹に信じ、念仏とともに謙虚で慈愛に満ちた生を送っている、職人さんや市井の人を指す言葉ですね。

西條 その、「自然にわかっている」というか、言葉でなく体得している、その感じをうまく言語化できないのですが、「妙好人」とも深い概念ですね。

門井 仏教哲学の鈴木大拙や民芸運動の柳宗悦なども、それについて言及しています。難しい經典の理屈なんか知らなくても、宇宙と直に繋がって、豊かでシンプルに幸せに生きている人の姿ですね。

西條 やはり、言葉の外ですね。例えば、認知行動療法、

## 魅力のない人って、いないんだな

門井八郎(かどい はちろう) 1972年11月3日生まれ、埼玉県鶴ヶ島出身、川越高校ではラグビー部に所属。中央大学文化人類学専攻で中沢新一先生の一期生として日本各地のフィールドワークに当たる。その知見を活かし、西條クリニック、西條クリニックを共に運営している。近年は各地の奇祭のフィールドワークを再開していた。享年53歳。





門井さん  
西條先生は門井さんのことを大切な友だちだと言いました。なんて羨ましい人なんだ、と門井さんに嫉妬してまでも、わたしにとっても門井さんは大切な友だちです。いつまでも友だちです。また会う日まで待っててください。(NA)



初めてお会いしたのは、2007年4月、表参道のアニベルセルでした。最初の言葉は「西條先生に緊張しているよ」でした。そんなことを言われたことがない私は、逆にとても緊張してしまったことを覚えています。(後に、その会に参加していた4人のうちの3人が、西條クリニックで一緒に働くことになることは夢にも思いませんでした。) 門井さんは無頼派で、小さなことなど歯牙にもかけず、我が道を行くといった印象はありますが、そんなことは全然なくて、繊細な神経を持ち、細やかな心配りができる人でした。ヘビースモーカーのくせに、血圧のことはとても気にしていて、よく私に相談に来ていました。「まずタバコをやめようよ」と言っても、そこはあまり聞いてもらえませんでした。そんなちぐはぐなところも、また門井さんの魅力でした。昨年末、愚かなる私は門井さんに「来年からクリニックでの喫煙は禁止な」と伝えてしまいました。それが、結果的に門井さんとの最後の会話になってしまいました。こんなことなら、そんなくだらないことを言うのではなく、祭りや映画の話でもしておけばよかった。



門井さん民俗学や文化人類学のこと、もっと沢山のことを教えて貰いたかったです。今までありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。(OF)

# スタッフから 門井八郎さんへ

門井さん  
思い出すと楽しい思い出しかありません。とはいえ早すぎました。また門井さんと楽しく話せる日を楽しみに、日々頑張ってます。不肖の妹(TA)



門井さんがカウンセリングを担当される日に受付で勤務していましたが、カウンセリング室のドアは閉まっているはずなのに時々、そこからとても楽しそうな笑い声が聞こえてきていました。

門井さんがクライアントからとても信頼されている証なのだなあと感じておりました…

神様は時々、「何故ですか？」と思うような仕打ちをされますが、今回のことはまさにそんな残酷な出来事だと思えません。今でも、水曜日にひょっこりと、門井さんが西條クリニックに現れるのではないかという気がしています… 心からご冥福をお祈りいたします。(NS)



人付き合いの苦手な私には、とても追いつけないほどの人脈の広さと人望の厚さをお持ちで、まるで映画の主人公のような方で。思い出話をするたびに、みんなが自然と笑顔になり、こんな生き方ができたら素敵だなと、私の目標でもあります。どうぞ安らかに眠りください。(TM)

そう思わずにはられません。昨年のクリスマスのお昼、一緒にモンブランを食べていたとき、門井さんは「先生のアクスタを作って売らしましょう」と、三回くらい繰り返して言っていました。仙人のような風貌のくせに、そのときの表情はまるでいたずらっ子のような様子でした。門井さんにはつまらない提案だと思い、私は黙っていたのですが、ふとそのことを思い出して、逆に門井さんのアクスタを作らせてもらいました。初対面の時のやりとりの反復ですよ、きっと。クリニックに置いておくので、これからもそっと見ていてくださいね。また会った時には、ラジオの続きをやりましょうね。(ST)

孤食の友と  
するもよし、

座右の名カウンセラーと  
するもよし、

“門井さんアクスタ、ご希望の方にお配りしています。”

門井さんの急逝にまだ信じられない状態です。若く早すぎるご逝去が悔やまれます。結婚される前からのお付き合いがありました。これまで精神療法で本当に多くの方を救って来られたと思います。(OY)



水曜日になると、もじゃもじゃヘアの門井さんを思い出します。楽しいトークや、嬉しそうにお菓子を召し上がっている姿が、今でもそっと心に浮かびます。何気ない水曜日、門井さんからたくさんの元気で笑顔をいただいていたのだと、今あらためて感じています。これからも水曜日に、なるたび、門井さんをお出しします。(KM)

